

長官談話

文部科学省・スポーツ庁では、これまでの約3年間、大学スポーツの振興に向けた議論を着実に進めてきました。平成28年4月、当時の文部科学大臣であった馳浩議員のリーダーシップのもと、「大学スポーツの振興に関する検討会議」が立ち上げられ、大学スポーツの更なる価値を発揮させるための策について、検討が重ねられました。その中で提案された大きなプロジェクトが、大学横断的かつ競技横断的統括組織、日本版NCAAの創設でした。

大学、学生競技連盟、産業界が協働で議論を行った「学産官連携協議会」や、大学及び競技団体が中心となり具体的な準備を進めてきた「設立準備委員会」のそれぞれにおける検討を経て、一般社団法人大学スポーツ協会、略称UNIVASは、本日平成31年3月1日に産声をあげました。時には議論が停滞しているように見える時期もあったかもしれませんが、しかしながら、UNIVASという組織の創設は、大学スポーツの在り方を根本から変える、歴史に残る第一歩であると言えます。

今まで別々の組織、異なる考え方の下で大学スポーツに関与してきた大学と競技団体が、「卓越性を有する人材」の育成といった目標に向けて、同じプラットフォームで議論を行い、共に歩み始めることができる、それが、UNIVASの価値であると考えています。

UNIVASの設立によって、大学スポーツが抱えるすべての問題がすぐに解決するとは思っておりません。より良い大学スポーツの実現に向けて二歩三歩と歩みを進めていくためには、一層緻密な議論が必要となると考えています。

3月1日までで、実に197の大学、28の競技団体及び3の連携会員が大学スポーツの変革に一役買おうと手を挙げていただきました。これまでは、設立に向けた準備の事務局をスポーツ庁が担ってまいりましたが、これからは、今までの検討内容を下敷きに、大学、団体の皆様が主体となってより良い組織を作っていただきたいと考えております。UNIVASが、一部の大学や団体だけでなく、全国津々浦々の様々な特性を持った大学、団体、地域住民、企業等にとってメリットのある、いずれは日本全体の活性化につながるような組織になることを願っております。

「スポーツで社会を変える。」それがスポーツ庁の使命の一つです。「大学スポーツから社会を変える。」UNIVASがその一助となることを期待するとともに、スポーツ庁としても、より多くの学生が日本で大学スポーツに取り組んでよかったと思える環境を整備するために、大学スポーツの振興に引き続き取り組んでまいります。

平成31年3月1日

スポーツ庁長官 鈴木大地